

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛成会	代表者	理事長 佐々木 哲	法人・事業所の特徴	法人の「愛・行動・感謝」という基本理念に基づき、事業所として『私たちは、利用者様一人ひとりを【尊重】し、【自分らしさ】と【生きがい】を持って、安心して暮らしが継続できるよう支援します』の理念を掲げ、ご利用者様にとって安心と信頼を得られる福祉サービスの実践に努めます。
事業所名	小規模多機能ホーム 自由ヶ丘	管理者	佐藤 史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	人	1人	人	5人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の結果を踏まえ、スタッフ個々にできることを増やしていく取組みを事業所として検討していく。	アセスメントに介護支援専門員以外の介護職員も同行したり、会議にも順番に出席したりすることで、スタッフ個々にできることを徐々に増やすことができた。	それぞれに意識しながら、共同して取り組んでいたと思う。	利用者と社会資源の繋がりを意識した関わりを実践するために、スタッフ各々が地域に関心をもち、積極的に関わっていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節を感じてもらえる雰囲気を感じ、居心地の良い空間作りに努めていく。	事業所に入ってすぐに季節を感じてもらえるような飾りつけを行い、利用する方の感覚に合わせて、温度や湿度を含めた空間づくりに努めた。	いつも訪問して慣れている人にとっては何とも感じないが、馴染みのない地域の人にはもしかしたら気軽に立ち寄れるという感じではないと思う。	利用者はもちろん、事業所を訪れるすべての人にとって居心地の良い、清潔な環境作りを継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	事業内容や相談窓口としての機能について、地域に知ってもらえるように積極的に働きかけていく。	地域の方が訪れる、交流センター等にチラシを設置してもらうことで PR を行ったものの、効果を実感できるものではなかった。より効果的な PR 方法を検討する必要がある。	地域の保育園や南高校の生徒の行事への訪問、地区の敬老会や高齢者たぐいサポート訓練等へ参加している。地域にチラシを配布して事業所を PR してはどうか。	地域の回覧板の活用や集会などに出向く機会を作ることで、事業に関して理解を求めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域と交流する機会を探り、積極的に参加していく。	運営推進会議での情報交換や回覧板等から情報を得て、町内や包括支援センター主催の催しにも回数としては少ないながらも参加することができた。	行事で地域に出掛けている様子を、事業所の広報誌で確認できている。	地域の行事やイベントの情報収集を行い、積極的に参加することで交流する機会を確保していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所と地域との情報交換の場として、運営推進会議を有効活用していきたい。	出席者も顔なじみとなり、情報交換の場として運営推進会議を活用できているものの、より有効活用できるよう努めていきたい。	地域の心配な方の情報が集まらず、事業所が協力するまでに至らなかった。介護保険の申請等を事業所が代行してくれることを知った。	地域での取り組みや、心配な方についての情報交換の場として運営推進会議を有効活用していく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災・災害対策に関し、事業所と地域が交流を図っていくことで協力体制強化につなげていきたい。	金属町としては自主防災訓練を行っていないため、隣の自由ヶ丘町会で開催している自主防災訓練への参加を、町会長を通して依頼した。	金属町として自主防災訓練は実施していないが隣の町会の訓練に参加している。日時が分かり次第情報提供する。有事の際、夜間であれば3名の職員で避難できるのか不安である。	地域の防災訓練へ参加し交流を図ることで、協力体制を構築する。